

# 全数届出見直しに伴うCOCOAの今後の取扱について

第100回（令和4年9月21日） 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード 事務局提出資料	資料2-4
--------------------------------------------------------	-------

○ 令和2年6月からのCOCOAの運用を開始以来、約4,070万件ダウンロードされ、陽性登録件数は約360万件と、多くの方々に利用されてきたところ。

※ 数値は令和4年9月16日時点。

○ その機能を十分に発揮するためには、利用者数や陽性登録件数の増加によるスケールメリットを活かすことが必要だが、全数届出見直しによって届出対象者が高齢者等の重症化リスクの高い者に限られることから、陽性登録が可能な者も限定されるため、その効果が限定的になることが見込まれる。

このため、COCOAの機能を停止することとする。

※ 行動が活発な若年層の多くが届出対象外のため、さらに効果が限定されると考えられる。

※ なお、機能停止にはシステム改修が必要となるため、デジタル庁で技術的な検討を行った上で、年内を目途にアプリの機能を停止する改修を実施予定。

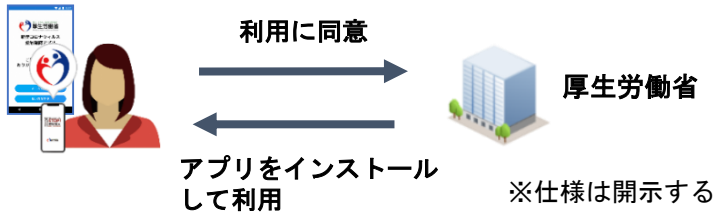
○ これまでのCOCOAの活用状況や評価、さらに活用を通して見えた課題等について総括を行うこととしており、その結果を踏まえながら、ITツールを活用した感染防止対策のあり方の参考としていく。

※ デジタル庁で報告書を取りまとめ、年度内に公表予定。

# 接触確認アプリ ～プライバシーへの配慮と接触の通知の仕組み～

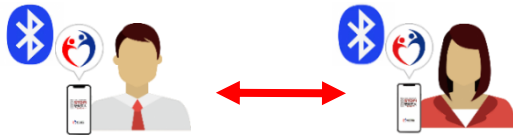
- 接触確認アプリは、本人の同意を前提に、スマートフォンの近接通信機能（ブルートゥース）を利用して、互いに分からないようプライバシーを確保して、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性について通知を受けることができます。
- 利用者は、陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができます。利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることを期待されます。

## ＜プライバシーに最大限配慮＞



- ・ 電話番号、位置情報など個人が特定される情報は記録しない
- ・ どこで、いつ、誰と近接したか、互いにわからない
- ・ 近接に関する情報（ランダムな符号）は端末内のみで保持し、14日経過後に自動で無効となる
- ・ 利用の同意はいつでも撤回し、アプリを削除して、記録を消去できる

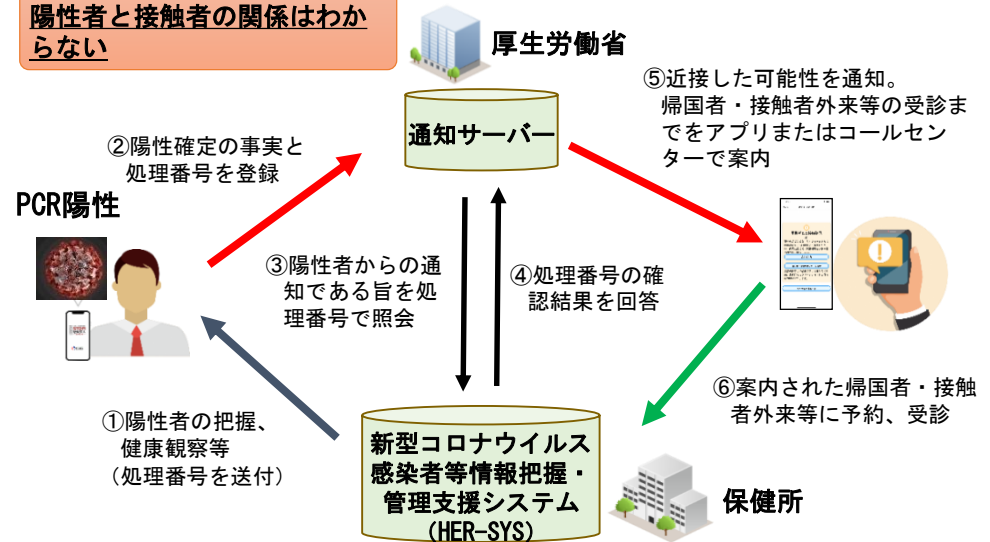
## ＜ブルートゥースによる接触の検知＞



- ・ ブルートゥースにより、1メートル以内、15分以上接触した可能性を検知
- ・ ブルートゥースをオフにすると記録しない
- ・ 消費電力の少ないブルートゥースを使用

## ＜陽性者との接触の可能性を通知、検査の受診などを案内＞

国・自治体では、個人情報や陽性者と接触者の関係はわからない

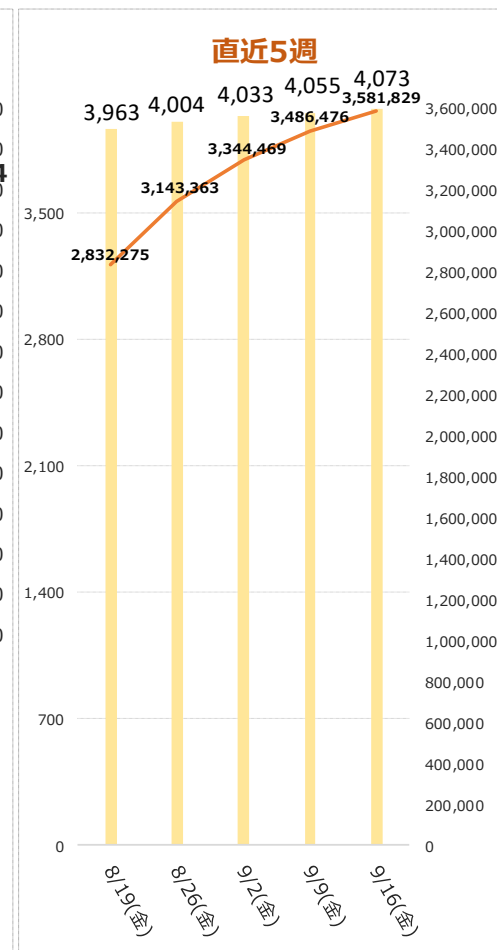
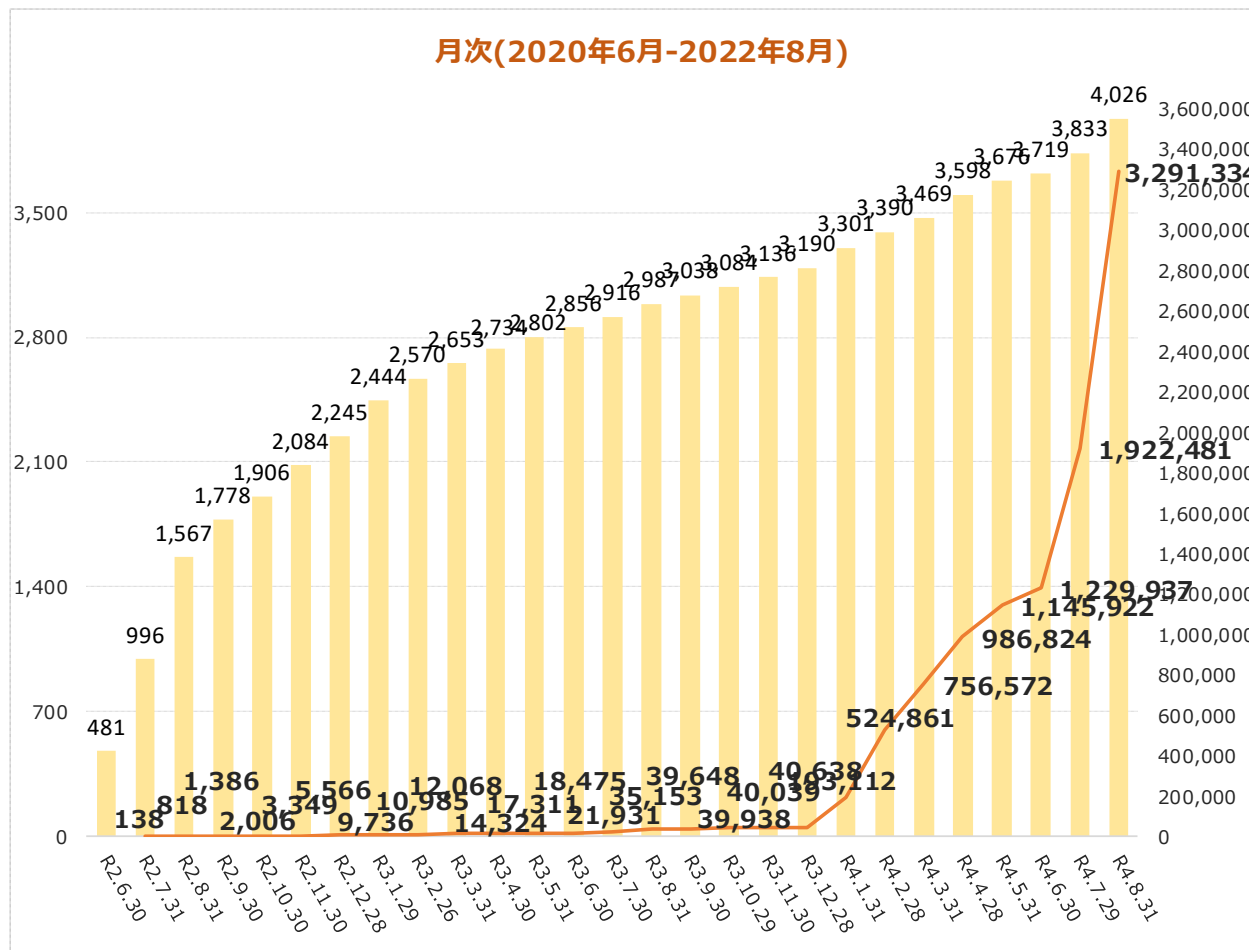


※①の処理番号は、アプリではなく、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システムから、本人が同システムに登録した携帯電話のSMS又はメールアドレスに送付

- ・ PCR陽性でない方が登録しないよう、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システムから処理番号を本人に発行し、本人がアプリで入力する。
- ・ 通知を受けた方には、医療機関等の受診までを、アプリまたはコールセンターで案内する。
- ・ 通知を受けた方が検査を受ける場合、検査に係る本人の費用負担は発生しない。

# 【接触確認アプリ】ダウンロード数・陽性登録件数 推移

■ ダウンロード数 (万件, 左軸)  
 — 陽性登録件数 (件, 右軸)



※ ダウンロード数はiOS、Androidの合計。一度削除し、再度ダウンロードした場合、複数回カウントされる場合があります。

※ 月次推移については各月最終の平日の数値、直近5週推移については各週最終の平日の数値を表示。

※ 各日17:00時点の件数を表示(ただし、2020年10月までの陽性登録件数は23:59時点)。